

# 事例発表要旨

## 1. 里山での植物観察を通じて

千葉県立茂原高等学校 細川 隆

里山は人の管理によって維持されてきたところであり、そこにはさまざまな景観があり、また、土地利用がなされている。それに伴い、生育する植物の種類も多様で、自然度の高い植物群落にひけをとらない。その里山で観察会を通じて感じたことの一部を紹介するとともに、里山の利用についても触れたい。

## 2. 昆虫から見た里山の変化

厚木市郷土資料館 梶 真史

神奈川県厚木市におけるチョウとトンボを中心とした昆虫の個体数の推移と、その遠因・要因について経験測から推測する。

## 3. 淡水魚類からみた谷津田の生物多様性

千葉県立犢橋高等学校 田中 正彦

千葉県において、谷津田とそこを流れる土水路は、天然記念物のミヤコタナゴをはじめ、ホトケドジョウやメダカなど貴重な淡水魚類の宝庫となっている。こうした場所は稲作などが行われており、水路の管理など人が適度に手を加えることによってその環境が保たれている。

今回は千葉市や佐倉市で行われた淡水魚類調査の結果をもとに、谷津田と土水路における生物多様性とその意義について考える。

## 4. アカガエル類の卵塊モニタリング調査と谷津田保全

東邦大学理学部生物学科地理生態学研究室 長谷川 雅美

ニホンアカガエルとヤマアカガエルは、早春の水田に産卵するカエルであり、ヘビや猛禽類、肉食性哺乳類などの餌資源として、谷津田生態系を支えている。アカガエルの卵塊数モニタリングの長期、広域的展開と、復田による個体数の回復の試みについて紹介したい。

## 5. 鳥の目で見た里山の生物多様性

都市鳥研究会 越川 重治

里山の生物多様性を保つためには、放置された雑木林や休耕田を適度に管理することにより、多様な環境を地域全体に作る事が大切である。そのような多様な環境とはどのようなものなのかを鳥の目で考えてみたいと思う。そして、千葉県の里山の生物多様性が失われつつある現状の問題点を浮き彫りにし、伝統的な農村環境ビオトープを再評価したいと思う。

